

喫煙妊婦へのビタミンC補給により新生児の肺機能に対する喫煙の影響を軽減

妊娠中の母親の喫煙は、生まれてくる子どもの肺機能の発達に悪影響を与え、生涯にわたって肺機能が低下したり、喘息発症のリスクが高まったりする。霊長類をモデルにした研究では、ビタミンCは子宮内においてニコチンが肺機能の発達に与える悪影響をいくらかブロックすることが示されている。本研究では、毎日ビタミンCを補給していた喫煙妊婦から生まれた新生児では、プラセボを補給していた場合と比べて肺機能や喘息への影響が軽減されるかを検討した。

2007年3月から2011年1月まで太平洋岸北西部の3地区で実施されたランダム化二重盲検試験において、喫煙妊婦（ビタミンC 500mg/日を補給された76人とプラセボを補給された83人）から生まれた新生児159人および非喫煙妊婦から生まれた新生児76人を対象に、新生児肺機能試験を行った。その結果、ビタミンCが補給された母親から生まれた新生児は、プラセボが補給された母親から生まれた新生児と比べ、肺機能の測定値は良好で、喘鳴は生後1年間でより減少していた（21%対40%）。生後1年の肺機能については、ビタミンC群とプラセボ群で有意な差はみられなかった。

喫煙妊婦にビタミンCを補給するという安価で簡便な方法により、新生児の肺機能を改善させ、喘鳴を減少させること可能であることが示された。

出典：Journal of American Medical Association. 2014; 311(20): 2074-2082